

とちぎ国際有機農業映画祭 2011

子どもたちに残したい未来。どんなものですか？

3月11日に起きた福島第一原子力発電所の事故。

それ以来、私たち農業者の生活は一変しました。

今まで当たり前には享受していた空気、水、土、そして美しい田畑の風景。

それらが原子力発電所の事故によって汚されたのです。

そしてそれは、原発の危険性を見ようとしてこなかった私たちにも責任の一端はあります。

私たち有機農業者は作物、作物以外の植物、動物、目に見えない小動物、微生物、すべてのいのちに携わるものとして原発とは共存できません。

今後どんな社会を作っていくか、それは今の私たちの責任です。

2011年の上映作品は「いのち、放射能、子ども」をテーマに選びました。

作品を通してみなさんともう一度考えたい。

あなたはどんな未来を創りたいですか？

タイムテーブル

9:30 ~	開場
10:00 ~	開会あいさつ
10:05 ~	「山のかなた」 76分 監督 池島芙紀子 山のかなたに幸せを求めても、そこにあるのは大惨事の恐怖です。破滅を防ぐには、さらにこの山を越えなければなりません。それは、原子力に依存しない暮らしに変えること。
11:30 ~	「子どもたちを放射能から守れ」 40分 監督 湯本雅典 福島に住む子どもの親たちによる「20mSv」撤回を求めた対政府交渉を描いたドキュメンタリー。親たちの決意、覚悟、政府の対応、私たちの知らなかった事実が描かれています。
12:10 ~	昼食
13:00 ~	「源八おじさんとタマ」 12分 監督 中村徹 源八おじさんと猫のタマが会話をしながら、原発がいかほど危険なものであるか、原発推進派のうそを判りやすく解説しています。
13:15 ~	「隠された被爆労働」 24分 監督 樋口健二 1995年イギリスで放映された「NUCLER GINZA」の日本語版舞台は日本……。日本の原子力労働者の現実を伝える。
13:39 ~	「みえないばくだん」 11分 監督 おおしばよしこ・じょうたろう 「むかし、せんそうがありました……。」こどもにもおとなにも見てもらいたい原発の絵本。五ヶ国語に翻訳されています。
14:05 ~	「ミツバチの羽音と地球の回転」 135分 監督 鎌仲ひとみ 未来のエネルギーをどうするのか？祝島とスウェーデンでエネルギーの自立に取り組む人々の物語
16:30 ~	鎌仲ひとみ氏講演 「放射能汚染をどう生き抜くか」 90分
18:00 ~ 18:05	閉会あいさつ

